6月28日（日曜日）「涙と喜びと」

【新改訳 2017】

詩篇　126•1－6

「涙とともに種を蒔く者は、喜び叫びながら刈り取ろう。種入れをかかえ、泣きながら出て行く者は、束をかかえ、喜び叫びながら帰って来る。」（5、6節）

　これもまたよく知られている聖句です。この内容は、イスラエルの捕囚からの帰還に関するものと考えられます。捕囚からの解放はまことに主の大いなるみわざによることだったので、民は大いに喜びましたが、荒れた土地の耕作や生活の再建は涙なしにはできない、困難な状況だったのでしょう。

　今日、この聖句は、よく宣教の働きに関して引用されます。みことばは種蒔き、すなわち伝道のわざは決して容易ではありません。祈りと行動もしているはずですが、思うように結果が見えません。まだまだ涙が不足なのでしょう。

　しかし、ここには感謝なことに、涙とともに種を蒔く者は、喜んで刈り取る時が来ると歌われているのです。このことを信じて、励み続けたいものです。

～祈り～

主よ。収穫の約束を感謝します。今涙しても、種を蒔き続けさせてください。喜びのために、涙を惜しまない者にしてください。

【学びのために】

イスラエルの捕囚:北王国はアッシリヤに、南王国ユダはバビロンに、それぞれ捕因されました。「捕らわれ人」とはその人たちのこと。